

両津病院移転新築事業や公共施設改修・統廃合についての市民説明会 主な意見のまとめ(島内10ヶ所で実施、合計270名参加)

区分	質問内容(カッコは地区名)	回答
5年間の建設事業 基本案	・アミューズメント佐渡の改修費用の17億円の内訳は？(両津)	・大ホールの耐震対応のつり天井、小ホール全体、屋根、外壁、機械設備。 ・アミューズメント佐渡の全体の改修となる。より安価にすることは議論している。
	・アミューズメント佐渡の改修内容を教えて欲しい。また、現在、建築何年目で、改修によって今後何年使えるのか？(佐和田)	・平成6年10月開館。24年経過している。長寿命化のため今回改修工事をする。内容は、外壁工事、雨漏り補修、大ホール・小ホールの天井の耐震改修、内装工事、トイレの改修、老朽化した電気設備、舞台の音響施設の整備などを考えている。
	・アミューズメント佐渡の改修スケジュールは得策なのか？(新穂)	・当初、アミューズメント佐渡は今年度中に作業に入るつもりだったが、合併特例債の延長に伴い、計画を一旦凍結したという経緯がある。早急に改修していきたい。
	・両津文化会館を存続できないのか？(両津)	・両津文化会館の「平成29年度で400名以上の利用件数は4件であった」ことから、両津支所と佐渡島離島開発総合センターの3階部分を改修することにより、代替施設になりえると考えている。
	・両津文化会館はNHKホールに負けない施設。何故解体するのか？(両津)	・両津文化会館は、耐震、空調、外壁などにも問題があることに加え、建築基準法の厳密化などもあり、改修費用に10億円以上かかると見込まれている。耐用年数も経過しており改修は難しいと判断している。
	・両津文化会館は100%解体するということによいか？(新穂)	・解体は不可避。大規模な行事はアミューズメント佐渡、小規模なものは佐渡島離島開発総合センターの改修で対応していただきたい。
	・本庁舎改修は具体的にどのような事業か？(相川、小木)	・エレベーターの設置、空調の入れ替え、トイレの洋式化のほか、防災関連として自家発電装置の強化、防災システムの入替えである。空調の入れ替えと防災関連の改修は最低限実施したい。 ・どの規模まで行うか議会の皆さんとも協議したうえで、最終的に判断したいと思っている。想定しうる上限の金額を出させてもらっている。
	・本庁舎の改修とあるが、災害に対する司令塔機能をどのように位置づけ改修を行っていくのか？(金井)	・内容としては、本庁舎が災害時の拠点として機能するための改修が主なものである。老朽化した防災システムの改修、長時間の自家発電の装置などである。それ以外としては、エレベーターの設置、空調の更新、トイレ洋式化などがある。最終的には予算の議決が必要であるが、防災関連の予算については、最低限確保していきたいと考えている。
	・現在、体育館を利用している市民の意見の吸いあげを、あらためて行っていただきたい。(新穂)	・市民説明会の前に、利用者説明会を行っている。利用者の皆様と話しをしながら調整を進めている。
・真野体育館を解体すれば、真野地区には公民館がなくなる。今回の真野公民館の新設計画は心から嬉しく思う。(真野)	・現在の真野体育館には公民館機能があり、体育館を解体すると公民館がなくなる。以前より公民館の新設の要望はいただいている。真野行政サービスセンターや真野ふる	

両津病院移転新築事業や公共施設改修・統廃合についての市民説明会 主な意見のまとめ(島内10ヶ所で実施、合計270名参加)

区分	質問内容(カッコは地区名)	回答
		さと会館の活用なども検討したが、費用などの問題から断念した。そのような状況を鑑み、今回の案である新設という決定に至った。
	・サンテラ佐渡スーパーアリーナや佐渡スポーツハウスは、利用者が多くほとんど使えない状態。真野体育館がなくなることによって活動ができない団体が出ないよう、振り替えなどについてしっかりとシュミレーションしているのか？(真野)	・時間帯が重なってしまう団体については、体育館を半面に分けて使うなど対応している。
	・真野体育館は利用者が非常に多い。利用状況など市はデータを把握したうえで調整をしているのか？(真野)	・利用状況を把握したうえで、昨年度より利用者の皆様と調整をさせていただいている。
	・サンテラ佐渡スーパーアリーナ建設時には、佐和田の体育館の建て替えということだったと思うが、今となって他の体育館を統合するというのはどういうことか？(新穂)	・平成21年の「佐渡市スポーツ振興審議会」の答申において、既に老朽化した佐和田、新穂、真野の体育館を廃止して新たな総合体育館を建設することが望まれる旨が示されていた。
	・真野体育館は、地域の要望に応じて変更する点もあろうかと思うので、今後どのように体育館を集中させるのか、周辺地域も均衡ある発展のためにある程度分散するのか、考え方を聞かせていただきたい。(小木)	・行政改革大綱などで、平成22年度の時点で、サンテラ佐渡スーパーアリーナの建設計画をふまえて、その当時、12の体育館が佐渡にあった。それを、サンテラ建設に合わせ12の体育館を7にするという計画が出されていた。
	・合併特例債が5年に延長になる。新庁舎建設は間に合う状況になった。あらためて住民投票すべきでは？(両津)	・庁舎に合併特例債を充てたとしても、他の事業は自主財源になり、結果として財源の扱いは変わらない。
	・今回の基本案は議会で否決されたものでは？なぜ、また同じ計画を示すのか？(両津)	・今回は、代替案も含めて市民要望を取り入れたもの。否決された計画と同じものではない。
	・合併特例債の残額が30億円あるのであれば、新庁舎を建て替えばいいのではないのか？(畑野)	・新庁舎を建設するとなると35億円全てが無くなり、お示ししている5年間の計画基本案が行えなくなる。両津病院の移転は必要なものであり、そうするわけにはいかない。
	・今回示された建設計画の案は、あくまでも市の案であり、確実なものではないということか？(真野)	・確実に今の案を進めるということではない。最終的な市の考えを、年内を目途に議会に示したいと考えている。31年度当初予算については、市民の皆様決定をお知らせできるのは、3月市議会後ということになる。
	・合併特例債が「解体」にしか使われないように見える。今後、他の施設に使うという考えはないのか？(佐和田)	・単なる解体ではなく、施設機能の移転や統合に伴う解体にしか合併特例債を使用できない。今回あげている内容が有効な活用法であると判断した。今までも新施設の建築に合併特例債を使うなどしており、解体のみに使っているわけではない。
	・解体工事が多いように見える。(新穂)	・これまで終わらなかった積み残しに解体工事が多いということ。

両津病院移転新築事業や公共施設改修・統廃合についての市民説明会 主な意見のまとめ(島内10ヶ所で実施、合計270名参加)

区分	質問内容(カッコは地区名)	回答
	・合併は、佐渡市全体で成し遂げたことであるので、メリットの部分も各地域に残して欲しい。(赤泊)	・バランスはとる必要があると重々承知しているが、それは合併特例債に限ったものではないと考えている。トータルの公共事業の中で旧10カ市町村を含めたバランスは必要だと思う。
両津病院	・建築には賛成。非常に嬉しい。(両津2名、小木)	<p>・現在同様の常設科を維持していく。</p> <p>・常設については、そのまま継続として考えている。</p> <p>・厳しい状況。県立病院のない佐渡では県、厚生連、佐渡市が連携して進めていかなければならないので、医療関係及び財源について特段の配慮をお願いしたいと花角知事に働きかけている。</p> <p>・市の取組として、奨学金制度などもあり、今後も市役所全体で施策を考えていく。</p> <p>・現時点の計画では想定していない。可能か不可能か含めて検討させて欲しい。</p> <p>・ヘリポートを屋上に設置するとなると費用が全く変わってくる。現時点では想定していない。現状では、佐渡空港を利用している。ジェットフォイルも使うなど緊急搬送体制をとっている。</p> <p>・病院事業債は確かに巨額だが、現在多くの利用者がいる病院において、耐震性がないということは考えられない。負債ではなく病院という財産を残すと考えている。</p> <p>・やっつけられるかどうかのシュミレーションですが、人口は減っていくが、病院を必要とする高齢者層は当然横ばいだと予測されている。病院事業債は年間1億2～3千万円、ピークで2億円を超す金額を30年間で償還する見込み。それであっても病院をつくるということが逆に佐渡市の財産になると自負している。</p> <p>・病院事業債以外にも、他の起債を含めて財源確保に努めていきたい。</p> <p>・9月中旬に県知事と会い、ご指摘いただいたような話をした。過去の経緯もきっちり説明した。医療スタッフ確保や公的施設、航路や新造船の整備についても強く働きかけをしてきたし、今後も強く言い続ける。</p> <p>・9月に花角知事とやり取りした中で、公立病院建築にあたっての各段の財政支援をお</p>
	・新病院の高台への移転は非常にいいと考える(羽茂)	
	・新築を機に良い病院として発展してもらいたい。現在の常設科以外の設置は検討しないのか？(両津)	
	・両津病院の診療化について、現在の診療科は継続するのか？(真野)	
	・医師・看護師の確保に努めてもらいたい。(両津、佐和田、新穂、羽茂、赤泊)	
	・新病院建設を嬉しく思う。要望であるが、周辺駐車場にヘリポートを整備して欲しい。(両津)	
	・両津病院に、ドクターヘリの離発着ができる機能を。(新穂)	
	・病院事業債を使用すると、将来に負債を残すことにならないか？(佐和田)	
	・病院事業債を借りて、佐渡市はやっつけられるのか？(小木、赤泊)	
	・新潟県は、佐渡総合病院にしてもカーフェリーにしても全くお金を出していない。県は佐渡市を何とかしようという気がするのか？(畑野)	
・新築にあたって、財政面についてうかがいたい。(赤泊)		

両津病院移転新築事業や公共施設改修・統廃合についての市民説明会 主な意見のまとめ(島内10ヶ所で実施、合計270名参加)

区分	質問内容(カッコは地区名)	回答
		<ul style="list-style-type: none"> 願っている。 ・医療スタッフの確保についても支援をお願いしている。
	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の両津病院の環境は悪い。可及的速やかに新築工事をしていただきたい。(畑野) 	<ul style="list-style-type: none"> ・決定となれば、肅々と進めていきます。
	<ul style="list-style-type: none"> ・両津文化会館の存続の陳情はどうなったか？(畑野) 	<ul style="list-style-type: none"> ・市議会で継続審議のまま現在までできていたが、9月議会で不採択となった。
歌代の里・すこやか両津	<ul style="list-style-type: none"> ・両津病院が移転すると、歌代の里やすこやか両津はどうなるのか？(両津、小木) 	<ul style="list-style-type: none"> ・歌代の里は、社会福祉法人などによる経営により、新たに移転新築する方向性である。 ・すこやか両津については、今の場所での運営形態を基本とする。将来的には社会福祉法人や医療法人による運営の方針である。
	<ul style="list-style-type: none"> ・両津病院が老朽化のほか津波など災害時に備えて移転新築するのであれば歌代の里やすこやか両津も同時移転するのが筋ではないか？(両津、小木、赤泊) 	<ul style="list-style-type: none"> ・すこやか両津は、他の2施設(両津病院・歌代の里)とは耐震や構造が異なるため、現在の場所、形態での運営を考えている。 ・歌代の里の移転の時期は、熱源を両津病院と一緒に使っているため、両津病院が今の場所からなくなると熱源を失うことになるので、歌代の里は両津病院がなくなった時点で独り立ちが出来ないことになる。 ・すこやか両津は、建築してまだ25年。耐震構造も持っているため、まだ使える期間は有効に使うと考えている。
	<ul style="list-style-type: none"> ・すこやか両津は、今のままの場所という話だが、津波対策は考えているのか？(佐和田) 	<ul style="list-style-type: none"> ・両津病院と歌代の里はエネルギー源が一体であり、地下室で発電しているため津波に弱い。すこやか両津は両津病院から切り離すことができる。津波がくれば1階部分は被害を受けると思うが、現時点ですぐに改修する計画はない。